

1936年2月6日

理化学興業株式会社から独立し、 理研感光紙株式会社として設立（～1938年）

リコーの創業者、市村清

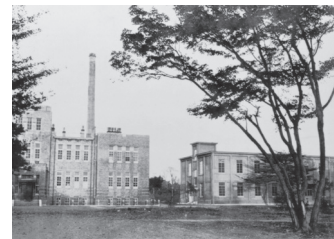
わが国の科学振興を目的に創設された理化学研究所はその研究成果の事業化を図るために1927年「理化学興業株式会社」を設立、ここから多くの理研製品が発売されていきました。同社の感光紙事業を大きく発展させたのがリコーの創業者、市村清（1900～1968）です。彼は感光紙部門いっさいの事業を継承し、1936年2月6日にリコーのルーツである理研感光紙株式会社を設立。資本金35万円、従業員33名の出発でした。

創業の精神として市村が提唱した「三愛精神（人を愛し 国を愛し 勤めを愛す）」は、事業・仕事を通じて、自らとその家族、顧客、関係者、社会のすべてを豊かにすることを目指した考えで、今もリコーグループの全社員が経営や仕事を行ううえでの原点としているものです。

そしてリコーの誕生

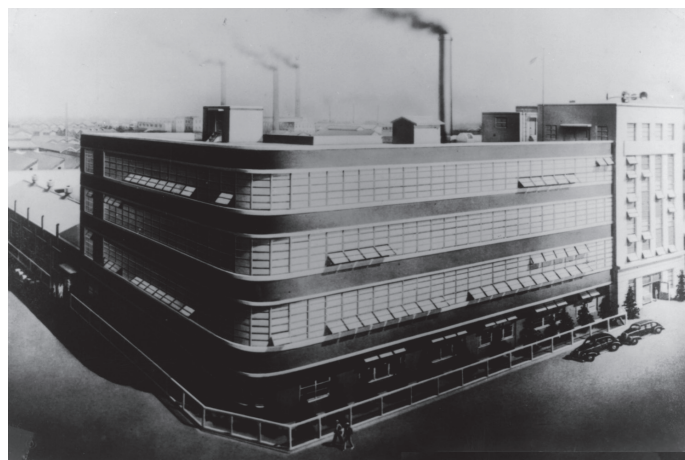


市村清写真



発足当時の理化学研究所（東京・文京区）

理研感光紙（株）から理研光学（株）へと社名を改めた頃の本社（東京・銀座8丁目 1938年）



感光紙製造の主力工場であり、時にはカメラ、双眼鏡もつくった理研光学王子工場（1938年）